

共催者あいさつ

秋田県副知事 堀井 啓一



堀井秋田県副知事

地元秋田県副知事の堀井でございます。こうして全史料協全国大会を私ども秋田県の大仙市で開催されますことに対しまして、心から感謝申し上げたいと思います。また、上川先生、ようこそ秋田県へ。本当にありがとうございます。

私ども秋田で、この協議会の大会を前回開催させていただいたのは、平成8年、今から19年前のことでございます。平成5年に、今の図書館の改築にあわせまして、公文書館を併設する形でスタートしました。その発足当初の時期でありました、平成8年の大会におきまして、全国からいらした皆様から大変な御指導を賜ったのでございます。当時、私どもも行政に携わっておりながら、公文書を保存し、そして次の世代に継承していくということの持つ意味を、十分理解していたかと思われる、残念ながら、決してそういう状況ではなかったのでございます。また当時、図書館と併設させていただきながらも、図書館と公文書館との関係も必ずしも円滑にいかないところでもございました。爾来20年近く経

過しているわけですが、この間にありまして、本当に皆様の御指導を賜りながら、改めて公文書を保存するということの意義・役割ということが徐々に私どもにも浸透してきたという風に私は思っています。

今お話がありましたように、例えば近世の、或いは近代国家の一般行政、或いは政治の歩みのみならず、例えば経済史であれ、産業史であれ、または文化であれ、そうしたものの歴史をふり返りながら、これからも様々なものに役立てるといふこと、これは大変重要なことです。その際私どもはそれぞれの分野を専門に研究しておられる方々の、いわば論法を読ませていただいて参考にするわけでありませうけれども、そうした方々のために基礎的な文献あるいは第一次的な資料など、様々な必要な文書をきちんと残していくということが、何よりも基礎的な要件であろうと思いません。

それからもう1つは、私どもが今、現に例えば行政であれ、様々な部分で取り組んでいることをしっかりと次の時代の継承に委ねて、そうした覚悟をもって今日の前にある様々な問題提起をし、そしてそれをしっかりと残していく、次の時代のいろいろな批判にさらしていく、求めていくといった取り組みを大切にしているからこそ、しっかりとした今の取り組みがきっとできるのではないかなという風な思いでいるところであります。

今私どもの大仙市が、東北の市町村において初めての公文書館をつくるということで、私どもも大変今回の開設に期待をし、そしてまた相応の評価をしているところです。これからはどうか皆様から、私ども県の公文書館にも、大仙市に来年開館する公文書館につきましても、御指導を賜ればと思います。

当地、大仙市は全国を代表する花火で有名な町です。花火は儂く目の前からは消えてしまうものですが、イメージの中ではずっと残るわけでありませう。そして今日は大

変素晴らしい天気にも恵まれまして、遠く鳥海山、或いは秋田駒ヶ岳、或いは収穫の終わった平野も大変美しい一日になります。そうした自然の変化、山と田、そうしたものもまたしっかりと残していくための取り組みをしてまいりたいと思っております。皆様からもそうした公文書の保存或いは活用に対しまして、これからはなお一段の御協力を御期待申し上げます。このほどの大会にあたりましてのお祝いの言葉とさせていただきます。誠にありがとうございました。